

特 集 3

令和4年度・特別委員会（鹿児島港本港区の まちづくりに関する調査）行政調査報告

令和4年度の特別委員会（鹿児島港本港区のまちづくりに関する調査）の行政調査報告の主な内容を紹介します。

委員会名	期 間	調 査 項 目
鹿児島港本港区のまちづくりに関する調査特別委員会	1/18～20	京都府立京都スタジアム（サンガスタジアム by KYOCERA）の管理運営等について（亀岡市） 神戸市御崎公園球技場（ノエビアスタジアム神戸）の管理運営等について（神戸市）

鹿児島港本港区のまちづくりに関する調査特別委員会行政調査報告から

【亀岡市】京都府立京都スタジアム（サンガスタジアム by KYOCERA）の管理運営等について

1 整備の背景や経緯

平成4年7月、京都府は、2002 FIFAワールドカップ（以下、「ワールドカップ」という。）の京都開催誘致と併せて、京都府南部へのスタジアム建設を表明し、6年6月に城陽市（木津川右岸）を建設予定地に決定したが、8年12月にワールドカップ会場選考に落選したことから、スタジアム建設の計画は白紙となった。

同年、京都パープルサンガ（現・京都サンガF.C.。以下「京都サンガ」という。）がJ1昇格を果たし、さらに15年1月の天皇杯JFA全日本サッカー選手権大会優勝等を受けて、ホームタウンである京都市が、同市伏見区の横大路運動公園内へのスタジアム建設構想を表明したものの、16年12月に同市が実施したパブリックコメントにおいて反対意見が示され、また、17年以降も西京極総合運動公園（同市右京区）等を候補地として再検討されたが、22年9月、同市内へのスタジアム建設については白紙となった。

その後、22年11月に京都府は、府におけるスポーツ施設の在り方について、多角的な観点から有識者の意見を聞くため、「京都府におけるスポーツ施設のあり方懇話会」を設置した。

23年1月に同懇話会から、「国際的な試合や全国的な試合の開催が可能な球技場が京都府内にはないことから、これに対応する競技場の新設を検討すべき」との提言がなされ、また、同年6月には、地元財界や府サッカー協会など10団体が参加する「京都・サッカースタジアムを推進する会」から、京都府や同府議会に、専用球技場の整備を求める約48万人の署名が提出された。

その後、23年11月に京都府が、専用球技場の建設が可能な用地の提供について、府内全市町村に公募を行ったところ、これに対し、京都市、城陽市、亀岡市、京丹波町及び舞鶴市の5市町から応募があり、24年2月に建築や環境等の学識者等で構成する「専用球技場用地調査委員会」を設置した。同年5月、同調査委員会は、「安定的な集客や観客の大量輸送の可能性」、「アクセスのしやすい環境」の観点から、京都市、亀岡市及び城陽市の3か所を重点調査地域に選定し、各重点調査地域に対する調査を行った。同委員会の報告を受けて、同年12月に京都府は、亀岡市から提案された用地（JR亀岡駅北側都市計画公園内）を建設予定地に決定した。

その後、25年5月に京都府と亀岡市は、同建設予定地周辺に生息する天然記念物の淡水魚「アユモドキ」への影響を検証するため、アユモドキを含む自然環境の保全に必要な調査や対策について、専門的見地を有する有識者で構成する「亀岡市都市計画公園及び京都スタジアム（仮称）に係る環境保全専門家会議」を共同で設置し、様々な調査や実証実験を重ね、専門的見地から対策の検討を進めていたが、28年4月、同専門家会議の座長から、「アユモドキの生息環境の保全と地域の保全活動の維持・発展につながる京都スタジアム（仮称）の整備との両立を早期に実現させるため、これまで検討してきた計画地に隣接する「亀岡駅北土地区画整理事業地」を建設地とすることが望ましいと考える」とする提言がなされ、同年8月、京都府と亀岡市は同提言を受け入れ、建設予定地を変更することを表明した。

また、25年7月には、スタジアムの運営や利活用等について、専門的見地を有する有識者の意見を聞くため、スポーツや施設運営、地域振興等の学識者等で構成する「京都スタジアム（仮称）運営経営専門家会議」を設置し、付帯施設設備や多様な世代が楽しめる日常的なにぎわいづくりに向けたコンセプトの策定等を検討した。

2 スタジアムの概要や特徴

(1) スタジアム整備の趣旨

- ① 府民がハイレベルなスポーツを身近に体感でき、青少年の夢とあこがれの舞台となるスタジアム
- ② 文化イベントの実施や観光情報の発信など、京都府中北部地域のゲートウェイとなるスタジアム

(2) スタジアムの概要

- ① 名称：京都府立京都スタジアム（サンガスタジアム by KYOCERA）
- ② 敷地面積：約33,140㎡（延床面積：約35,600㎡）
- ③ 施設規模：地上4階建
- ④ 施設構造：鉄筋コンクリート造・鉄骨造
- ⑤ 施工期間：平成29年12月～令和元年12月（約2年1か月）
- ⑥ 事業主体：京都府
- ⑦ 設計：(株)東畑建築事務所
- ⑧ 施工：竹中工務店・公成建設・長村組JV（主体工事）
- ⑨ 収容能力：約21,600席
- ⑩ 総事業費：約154.5億円（京都府）※亀岡市負担分（用地取得費）を除く。

	京都府	亀岡市
実施設計費	約1.4億円	—
本体工事費	約136億円	—
用地取得費	約13.7億円	約20億円
備品等購入費	約3.4億円	—

(3) スタジアムの特徴

① 臨場感あふれる観戦環境の実現

スタンド最前列からタッチラインまでの距離をメインスタンド側で7.5m、バックスタンド側で8.5mとし、また、二層式スタンドの上段席を下段席に張り出させることにより、スタンド全体をできるだけフィールドに近づけている。スタンド最前列とピッチとの高低差を1.2mに抑え、選手に手が届きそうな臨場感あふれる観戦環境を実現している。

二層式スタンドの上下段でスタンドの傾斜



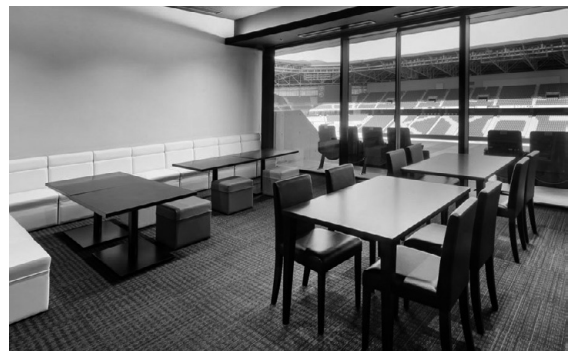
臨場感にあふれる観戦環境を実現した二層式スタンドとスタジアムの屋根（出典：サンガスタジアムHP）

角度や背もたれの高さ・角度を変えることで、それぞれの座席からの最適な観戦環境を提供している。

また、スタンド全体を覆う屋根は、スタンドの最前列から2m張り出すことで雨天時の観戦に配慮するとともに、屋根の高さを極力抑え、プレーする選手の声や音、観客の声援が場内に響き合う迫力ある音環境をつくり出している。

② 豊富なシートバリエーションと充実したファーストクラスゾーン

観客席は、一つ一つが背もたれ付きの個席（カップホルダー付き）となっており、快適に過ごすことができる。また、一般席のほか、ハイクラスゾーンとしてVIP席（2階180席）、スカイボックス席（3階16室312席）を設置し、食事を楽しみながら観戦できるVIP用の個室やラウンジも設けている。



食事を楽しみながら専用バルコニーから観戦できるスカイボックス（出典：サンガスタジアムHP）

スタンドのコーナー部分には、フィールド全体を見渡すことができるコーナー観客席を配置し、その一部は、ウッドデッキのテラス席として、ピクニック気分で観戦できるスペースとして確保されている。

③ エコなスタジアム

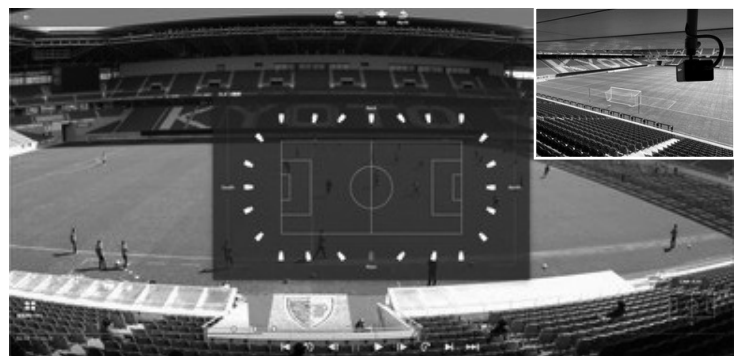
外観のホルバーに京都府内産の間伐材を使用しているほか、ナイター照明をはじめとする各部照明にLEDを採用して省エネを図り、スタジアムの屋根には約1メガワットの太陽光パネルが搭載されている。また、施設内のトイレの洗浄に雨水を利用するなど、環境に配慮した「エコなスタジアム」となっている。



スタジアムの屋根に搭載されている太陽光パネル（出典：サンガスタジアムHP）

④ 地域の防災拠点

災害時に都市ガスの供給が停止しても温水シャワーの利用や炊き出しができるようガスタンクを設置しているほか、停電してもトイレや照明、空調等が使用できるよう非常用発電機を設置している。また、バックスタンド1階にはトラックによる搬出が可能な防災備蓄倉庫が配置されている。



⑤ 最先端の試合分析サービス

ピッチを取り囲む24台の常設カメラで撮影し試合映像をリアルタイムに合成変換してパソコンやタブレットへ配信し、コーチやアナリストがタブレットの

ピッチを取り囲む24台の4Kカメラ（右上）でピッチを撮影し、リアルタイムに合成変換した試合映像が配信される自由視点分析サービスVantage（出典：MasterVisions株式会社プレスリリース）

画面をスワイプすると、シームレスにアングルが回転し、試合の状況を様々なアングルから確認・分析ができる自由視点分析サービスVantage（バンテージ）を導入している。

⑥ 誰もが楽しめる観戦環境

全スタンドに車いす専用場所を設けているほか、多目的トイレや授乳室等も完備し、誰もが快適に楽しめる観戦環境を整備している。

⑦ 芝生保護材を完備

スポーツ以外でのイベント開催時に天然芝ピッチを保護するための芝生保護材を保有しており、イベント開催時に使用することができる。



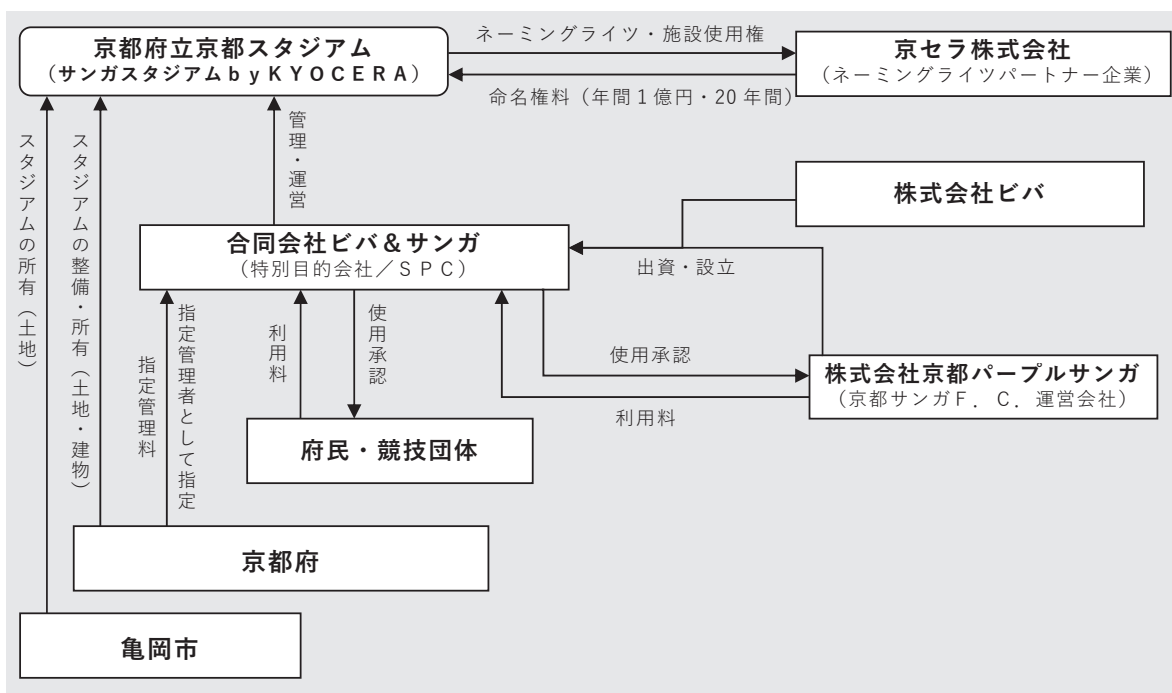
芝生保護材「テラプラス」
（出典：コウフ・フィールド株式会社HP）

⑧ アユモドキと共生するスタジアム

スタジアム周辺に生息する天然記念物「アユモドキ」を保全するため、遮音性の高い構造を採択し、産卵時には試合やイベントを行わない工夫をしている。また、総合インフォメーションには、アユモドキの展示コーナーを設置している。

3 管理運営の状況や特徴

(1) 地方自治法に基づく指定管理者制度



同スタジアムは、京都府が事業主体として建設し、建物を京都府が、土地を京都府と亀岡市が所有しているが、令和元年1月に、スポーツ施設などを経営する（株）ビバと、京都サンガの運営会社である（株）京都パープルサンガの2社が出資・設立したSPC（特別目的会社／Special Purpose Company）である合同会社ビバ&サンガが、地方自治法に基づく指定管理者として、管理運営を行う公民連携の手法を採用している。

- ① 指定管理者：合同会社ビバ&サンガ
 - ② 指定期間：令和元年12月28日～12年3月31日（11年3か月）
 - ③ 指定管理料：7千万円（令和3年度）
- (2) ネーミングライツパートナーの募集

同スタジアムにおいては、スタジアムの整備に伴う公共的機能の維持・向上に資する財源を確保するため、ネーミングライツパートナー制度を導入した。

これを受けて応募した京セラ（株）からの提案内容（愛称：サンガスタジアム by KYOCERA、契約期間：20年間、募集金額：1年間当たり1億円）について、外部有識者で構成する意見聴取会の意見等を踏まえ、同年6月に、同社を優先交渉権者として交渉を行い、同年12月にネーミングライツパートナー契約を締結した。



サンガスタジアムの外観（スタジアム正面より）
（出典：サンガスタジアムHP）

- (3) ふるさと納税の活用（個人・企業等からの寄附金の募集）

京都府は、「府民とともにつくるスタジアム」を目指して、ふるさと納税制度を活用して、個人やグループからの寄附金を募っており、寄附金は、府民スポーツ振興基金に積み立てられ、スタジアムの維持管理経費に活用されている。

	個人		法人		合計	
	件数 (件)	金額 (円)	件数 (件)	金額 (円)	件数 (件)	金額 (円)
平成29年度	6	363,000	0	0	6	363,000
平成30年度	539	25,923,568	0	0	539	25,923,568
令和元年度	1,436	80,092,956	36	105,550,000	1,472	185,642,956
令和2年度	53	2,067,045	8	32,400,000	61	34,467,045
令和3年度	65	2,964,000	4	3,300,000	69	6,264,000
合計	2,099	111,410,569	48	141,250,000	2,147	252,660,569

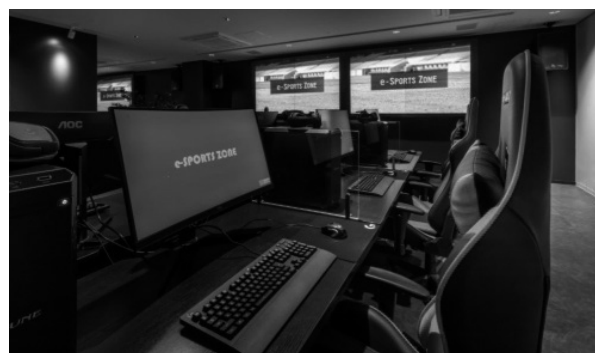
4 試合・イベント時以外のにぎわい創出の取組

- (1) SKY-FIELD（スカイフィールド）

SKY-FIELDは、先端テクノロジーを活用したスポーツや健康づくり、イノベーション、人材育成の拠点として、令和3年に整備された。

- ① eスポーツゾーン

高性能パソコンを導入したeスポーツ施設で、プログラミング教室やeスポーツの大規模イベント、IT人材の育成を目的としたセミナー等を実施している。



多数の高性能パソコンが配置されているeスポーツゾーン
（出典：サンガスタジアムHP）

② VR／フィットネスゾーン

大きなスクリーンに映し出されるデジタル映像に合わせて、楽しみながらバイクを漕ぐサイクルワークアウトや、ヨガやピラティス、エアロビクスなど様々なプログラムが提供されている。



壁一面の映像を見ながらエアロバイクをこぐサイクルワークアウト等ができるVRスタジオ
(出典：サンガスタジアムHP)

③ コワーキングゾーン

コワーキングゾーンは、ピッチが一望できる開放的な空間で、スポーツを基軸としたビジネスコラボが生まれる環境を提供し、プロスポーツに関わる一流の人たちから目標達成の考え方を学んだり、ビジネスを飛躍させるアイデアが生まれる場所として、スポーツを通じた人財育成に取り組むために設立された一般社団法人京都スポーツイノベーションファクトリーと、京都の起業家向けコワーキングスペースを運営するCollabo Earth（コラボアース）により運営されている。



ピッチが一望できるコワーキングゾーン
(出典：サンガスタジアムHP)

(2) 付帯施設

① Football Diner（フットボールダイナー）

令和4年4月に「Football Diner（フットボールダイナー）」として、フードコートからリニューアルオープンした。地域住民のコミュニケーションの場となるよう、大型モニターを配したラウンジスペースと子どもたちが靴を脱いで楽しめるキッズエリアが整備され、電源コンセントを設置したカウンター席等も配置されている。



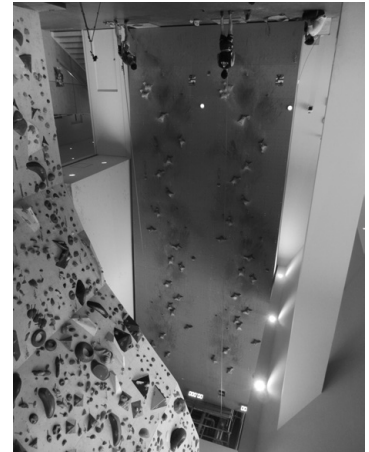
フットボールダイナーのラウンジスペース
(出典：サンガスタジアムHP)



フットボールダイナーのキッズエリア
(出典：サンガスタジアムHP)

② クライミングエリア

ボルダリングジム「グラビティリサーチ」を運営する好日山荘（神戸市）に委託し、スポーツクライミング3種目（リード、ボルダリング、スピード）の国際競技基準を満たす屋内型クライミング施設「グラビティリサーチ サンガスタジアム by KYOCERA」として運営している。また、子ども用ウォール「キッズウォール」を設けるなど、様々な年齢やレベルに合わせてクライミング・ボルダリングを安心して楽しめるよう、経験豊富なスタッフがサポートしている。



スタジアム内に設置されている
スピードウォール
(撮影：鹿児島市議会事務局議事課)

③ 3×3バスケットコート

オリンピック種目にもなった3×3バスケットボールのコート（2面）が併設されており、誰でも自由に利用することができる。（予約制・無料）



スタジアムに併設されている3×3バスケットボールコート
(出典：サンガスタジアムHP)

④ 足湯施設

令和2年11月に整備され、地元「湯の花温泉」の素を入れたお湯が使用されている。



スタジアム正面インフォメーション前に整備された足湯施設
(出典：サンガスタジアムHP)



足湯施設の内観
(出典：サンガスタジアムHP)

⑤ 企業主導型保育事業「びばっこ保育園」

令和3年6月に、企業主導型保育事業として、(株)ビバが運営する「びばっこ保育園」が新規開園し、広々としたスタジアムの天然芝や周辺の自然豊かな環境を生かして、「遊びながら子どもたちの五感を育む「遊育」プログラム」が提供されている。



ピッチでひなたぼっこをする
びばっこ保育園の園児たち
(出典：びばっこ保育園HP)

5 スタジアム設置後の効果

(1) 新型コロナウイルス感染症の影響

開業当初、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、Jリーグが無観客でのスタートとなり、シーズン終盤も観客の入場が制限された。また、コンサートやライブなどのイベントもほとんど実施されず、大河ドラマ館（令和2年放送NHK大河ドラマ「麒麟がくる」）の入場者数は当初の計画を大幅に下回った。一方で、密を避けてオープンに使える場所として地元関係者に様々な使用方法をアピールすることができたことから、ピッチを使用して地元中学校の体育祭や亀岡市の成人式が開催された。



サンガスタジアム by KYOCERAで開催された令和5年「亀岡市はたちの会」の様子（出典：亀岡市HP）

(2) 京都府及び亀岡市による取組

京都府は、亀岡市など府中部の5市町及び京都市右京区の旧京北町エリアを「森の京都」と位置づけており、同スタジアムには、そのゲートウェイとしての役割が期待されることから、亀岡市や各自治体、様々な事業者と一緒にエリア活性化の拠点を目指し、まちづくりのガイドライン策定や様々なイベントなど、地域一体となった取組を通じて、エリアマネジメントの体制を整え、発展させようとしている。

また、亀岡市においては、同スタジアムを地域活性化の拠点として位置づけた「にぎわいのあるまちづくり」に取り組んでおり、市域の交流人口の増加及び新たなビジネスの創出による地域経済の活性化を目的として、令和3年度から、同スタジアムの集客力強化や周辺地域への誘客



（出典：サンガスタジアム・イノベーション・フィールド実証事業HP）

につながる事業や、デジタル・テクノロジー領域における同スタジアムの新たな活用方法の検証・ビジネス化に取り組む事業の実証実験を行う企業等を支援する「サンガスタジアム・イノベーション・フィールド実証支援事業」に取り組んでいる。

【神戸市】神戸市御崎公園球技場（ノエビアスタジアム神戸）の管理運営等について

1 整備・改修の背景や経緯（整備に向けた協議の経緯、改修の概要等）

昭和45年、旧神戸競輪場跡地に、国内で初となる夜間照明設備を備えた球技専用スタジアム「神戸市立中央球技場」として開場した。当時は、メインスタンドのみ座席で、バックスタンドは立見席、ゴール裏は芝生席となっており、収容人数は約1万3千人であった。

その後、2002FIFAワールドカップ（以下「ワールドカップ」という。）の開催に合わせて、4万人規模（仮設席を含む。）の収容能力を有するスタジアムの整備が必要となったことから、平成13年1月にゴール裏の仮設席を含めた同球技場の改修を行い、ワールドカップ規格の4万2千人収容のスタジアムとして完成（第1期工事）し、14年5～6月にかけて、ワールドカップ神戸会場として、合計3試合が開催された。

ワールドカップ終了後の15年に南北ゴール裏の仮設席を撤去するとともに、開閉式の屋根が設置されたほか、スタジアム内にはピッチを一望できるパノラマレストランやスポーツクラブが新たに整備された。（第2期工事）

なお、楽天ヴィッセル神戸（株）が管理運営事業者となった令和元年度以降も様々な施設改修が行われている。



第1期工事（遠方より）
（出典：ノエビアスタジアム神戸HP）



開閉式の屋根が設置される（第2期工事）
（出典：ノエビアスタジアム神戸HP）

2 スタジアムの概要や特徴

(1) スタジアム概要

- ① 名称：神戸市御崎公園球技場（ノエビアスタジアム神戸）
- ② 敷地面積：101,106.5㎡（建築面積：約31,706㎡／延床面積：49,691.24㎡）
※東西約160m×南北約210m、ピッチと客席間が7～10mの近さ
- ③ 施設規模：地上7階建（高さ：約45.0m）
- ④ 施設構造：鉄筋鉄骨コンクリート造
- ⑤ 改修期間：平成30年4月～令和2年9月（約2年6か月）
- ⑥ 事業主体：楽天ヴィッセル神戸株式会社
- ⑦ 観客席数：29,607席（普通席：28,417席／車いす席：84席／VIP席：767席ほか）
- ⑧ 改修費：非公開

(2) スタジアムの特徴（設計・工法・構造等）

- ① 間近なピッチに心が躍る球技専用スタジアム
スタンド席からピッチまでの距離は、最も近いところでわずか6mとなっており、最上階か

らでも迫力ある臨場感を感じることができるよう座席の勾配が配慮されている。ピッチは、サッカー、ラグビー等の国際規格に対応しており、コンサートや各種イベントでの利用を可能とするなど、スタンドとの一体感にあふれたスタジアムとなっている。

② 国内最大級の開閉式屋根を有する全天候型スタジアム

スタジアムの屋根は、当初、メインスタンド及びバックスタンドのみに設けられていたが、ワールドカップ終了後に南北ゴール裏の仮設席を撤去し、開閉式屋根駆動システムを導入した。この開閉式屋根は開閉部と固定部で構成されており、4枚の開閉屋根パネルは、奥行き82m、長さ30mで、屋根天頂部は約50mの高さになる。開閉はボタン操作のみで、約20分で、省電力でスムーズな開閉が可能となっている。

③ 国内初のハイブリッド天然芝の導入

同スタジアムのピッチには、最新のハイブリッド芝生システム「S I S G r a s s（シスグラス）」が導入されており、天然芝と同様のプレー環境や感触を維持しつつ、人工芝の持つ耐久性を兼ね備えたフィールドを実現している。（天然芝：96%、人工芝：4%）

また、あらゆる自然環境に対応するため、地中に「地温コントロールシステム」を導入しているほか、スタジアムの構造上、通常より日照時間が短くなることから、芝生を健全に育成するため、人工的に光をつくり出す照明システム「グローライト」を導入している。



国内のスタジアムで初めて導入された同スタジアムの「ハイブリッド芝」
（撮影：鹿児島市議会事務局議事課）



天然芝の生育不足を改善するため、人工的に光をつくり出す「グローライト」
（撮影：鹿児島市議会事務局議事課）

④ ピッチ照明のLED化

同スタジアムのピッチ照明にはLED照明が使用されており、通常の照明に比べて、電気使用量を大幅に削減している。

⑤ 再生可能エネルギーの利用や省エネに関する活動

同スタジアムでは、環境に配慮したスタジアム運営を目指し、令和4年6月から再生可能エネルギーを100%使用し、電力使用によって排出される全てのCO₂が削減され、前年の実績値と比較して年間のCO₂排出量が削減されている。ピッチ照明や各諸室・廊下、コンコースなどのホームゲームやイベント利用、日常業務で通常使用する照明（約5,800個）を100%LED化し、通常の照明に比べ約67%の電気使用量を削減（見込み）している。

⑥ 地域を守る防災拠点

同スタジアムは、神戸市の総合備蓄拠点となっており、北側のスタンド下には防災倉庫が整備され、約2万人分の水や食料品のほか、乳幼児用粉ミルクや紙おむつ、災害救助用毛布等が備蓄されている。

また、同スタジアムが立地する御崎公園の地下には、飲料水及び消防用水を確保するための耐震性貯水槽が埋設されるなど、災害時の一時避難場所・防災拠点としての備えがされており、近い将来発生する可能性が高いとされる南海トラフ地震等の大規模災害の発生を想定し、近隣住民をはじめ、教育機関や企業、行政機関等と連携し、避難誘導の確認を行うなどの防災訓練を実施している。



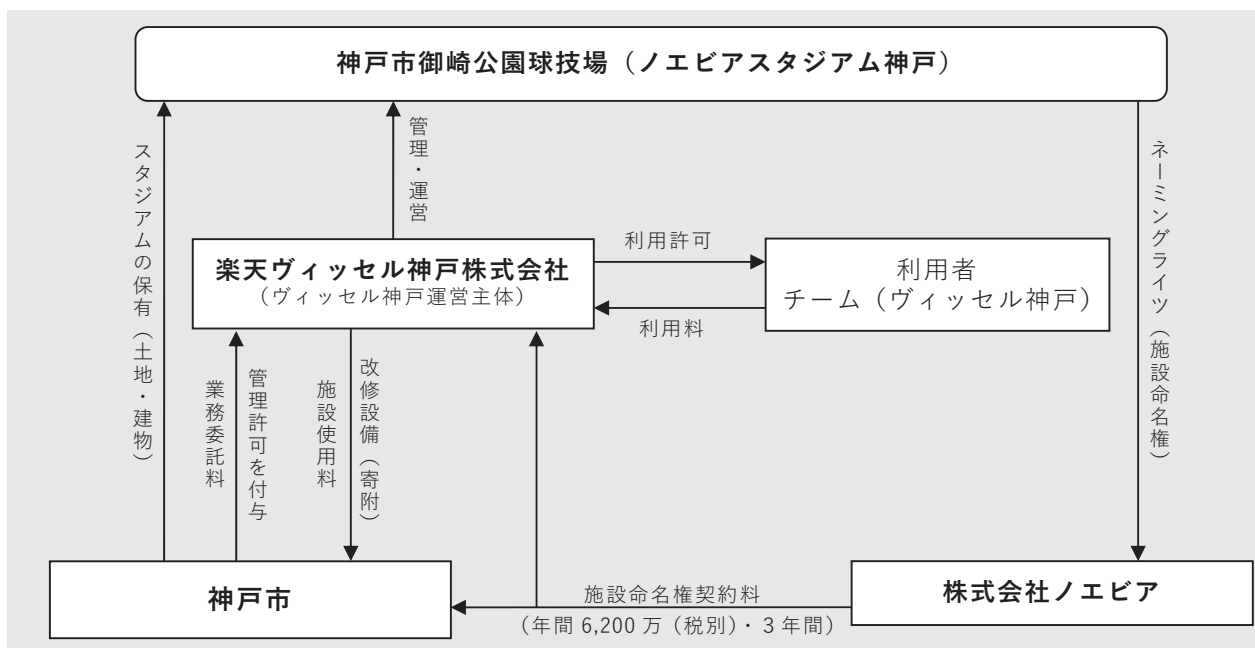
防災倉庫に備蓄されている災害救助用毛布
(撮影：鹿児島市議会事務局議事課)



周辺の地域住民が参加して行われた防災訓練
(出典：神戸市HP)

3 管理運営の状況や特徴

(1) 都市公園法に基づく管理運営許可制度



同スタジアムの土地・建物は神戸市が所有しているが、平成30年1月、同スタジアムの主要なコンテンツであるJリーグのヴィッセル神戸の運営主体である楽天ヴィッセル神戸（株）が、都市公園法に基づく管理運営事業者として管理許可を受けてスタジアムを管理・運営しているほか、自己資金による施設改修を行う公民連携の手法を採用している。

- ① 管理運営事業者：楽天ヴィッセル神戸株式会社
- ② 許可期間：令和2年4月1日～12年3月31日（10年間）
- ③ 業務委託料：約2億2,500万円（管理料・修繕費を含む。）

(2) ネーミングライツ

同スタジアムにおいては、平成19年からネーミングライツが導入されており、25年から（株）

ノエビア（神戸市中央区）と3年更新で契約している。

直近では、令和4年3月1日から7年2月までの3年間、年間契約料6,200万円（税別）で契約されており、神戸市と楽天ヴィッセル神戸（株）が半分ずつを受け取り、同市は施設の改修や更新、魅力向上のために活用することとしている。

(3) 楽天ヴィッセル神戸（株）が目指す「新スタジアム構想」

管理運営事業者である楽天ヴィッセル神戸（株）は、神戸の街・人全てが立ち止まることなく、永遠に前進し続けていきたいという思いを表した「Kobe Forever Forward」の精神で、同スタジアムの管理運営について、スタジアムを拠点としたまちづくりプロジェクトと位置づけ、ホームタウンである神戸市と連携して「世界に誇れるスタジアム」へと進化させ、アジアNo.1を目指すとしている。

① スポーツ興行からエンターテインメント興行へ

試合観戦のみならず、スタジアムに来場するだけで楽しいと思える空間の創出

② スタジアムからスポーツパークへ

サッカーやラグビーだけでなく、様々なスポーツ大会やイベントの開催が可能な施設

③ 今までの日本になかった新しいスタジアムの創出へ

チケットレス化やキャッシュレス化などの相乗効果を活かしたサービスの向上

④ 日本初のハイブリッド芝ピッチで、チームが勝てるスタジアムへ

選手のアグレッシブなプレーを引き出し、サポーターの声援で勝利を掴む

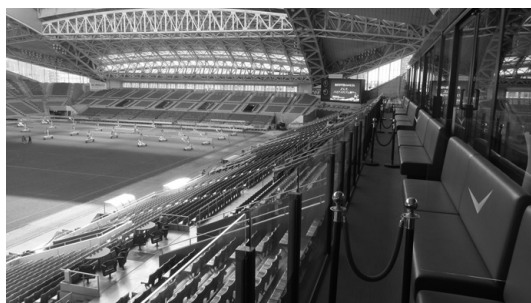
(4) 楽天ヴィッセル神戸（株）が管理・運営を受託して以降のハード面への投資

① V I P個室ルーム（12室）の新設

南側メインスタンドにV I P個室ルーム（12室）を新設した。



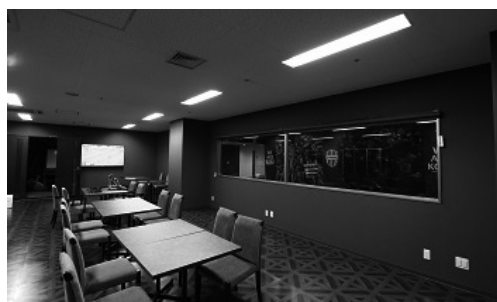
メインスタンド最上段の「V I P個室ルーム」
（出典：株式会社デザインアークHP）



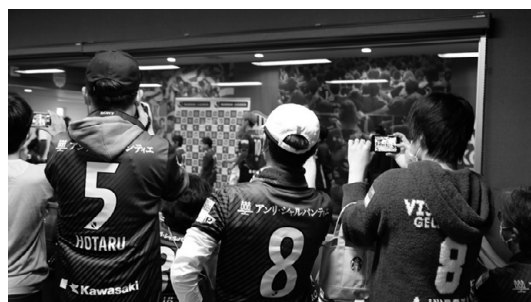
「V I P個室ルーム」前に配置された専用席
（撮影：鹿児島市議会事務局議事課）

② V I Pルームの増設

選手入場口の真横にV I Pルームを設置した。



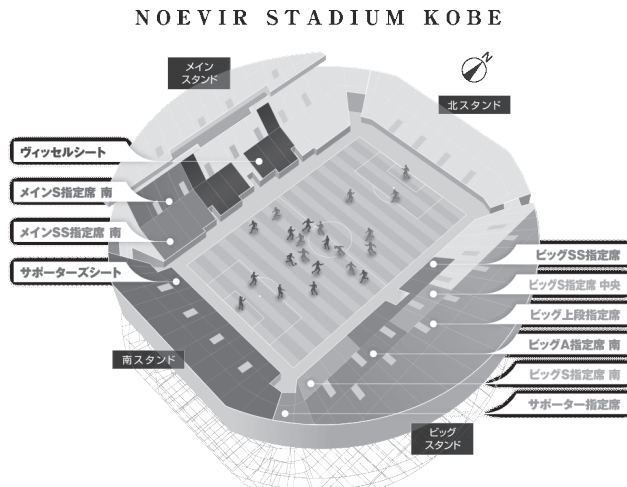
選手入場口の真横に増設された「V I Pルーム」
（出典：ヴィッセル神戸HP）



「V I Pルーム」からは選手を間近に撮影できる
（出典：ヴィッセル神戸HP）

③ 南スタンド座席の増設

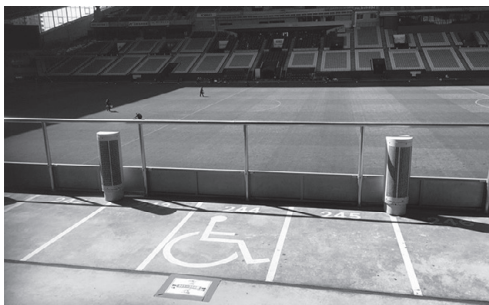
南側スタンドに約700席を増設した。



左：増設された約700席のスタジアム内の配置（囲み斜線部分。一部加工あり）（出典：ヴィッセル神戸HP）
 右：南側スタンドに増設された約700席のシート（撮影：鹿児島市議会事務局議事課）

④ ファミリーシート（プレミアム4）

稼働率の低かったメインスタンド中段の車いす席を、テーブル付きの4人掛けシートに改修した。



バックスタンド中段に設置されている車いす席
 （出典：ヴィッセル神戸HP）



メインスタンド中段に設置されている
 ファミリーシート「プレミアム4」
 （出典：ヴィッセル神戸HP）

⑤ エントランスラウンジのリニューアル

正面エントランスと旧レストランを全体的にリニューアルし、「ヴィッセルラウンジ」に改修した。



正面エントランスと旧レストランをリニューアルした「ヴィッセルラウンジ」
 （出典：ノエビアスタジアム神戸HP）

4 顧客経験価値の向上（スタジアム見学ツアー、1dayVIPチケット等）

(1) スタジアムツアーの実施

同スタジアムでは、スタジアムツアーを実施しており、約1時間でスタジアム内の記者会見室や選手入場口を見学するベーシックプラン（大人1名：1,100円／小学生1名550円）や、約2時間でヴィッセル神戸のOB選手の案内でスタジアム内を回り、ホームロッカールームの見学やサイン入りグッズ抽選会に参加できるプレミアムプラン（大人・小学生1名：5,500円）を実施している。

(2) プレミアムチケット「1dayVIPチケット」の販売

通常では決して味わうことのできない特別な観戦体験ができる「1dayVIPチケット」として、ピッチサイドでの試合前のウォーミングアップ見学や専用ラウンジからの選手入場見送り、メインスタンド中央のVIP席からの観戦、試合終了後のピッチ特別開放などの様々な体験を特典とするプレミアムチケット「1dayVIPチケット（1席／30万円（税込）」を販売している。

(3) ヴィッセル神戸スポーツクラブの運営

同スタジアムでは、トレーニングジム、プール、フットサルコート等を備えた「ヴィッセル神戸スポーツクラブ」を営業しており、利用に当たっては、利用者の体格測定を行い、利用者一人一人の体や悩み、希望に合わせたメニュー（健康増進や筋力アップ、シェイプアップ、リラクゼーションのほか、トップアスリートの基礎体力向上や強化トレーニング、スポーツ障害予防など）を提供している。年齢や性別、身体の障害の有無を問わず、あらゆる人々が、それぞれの体力や能力、目的に応じた適切なトレーニングを続けることができる。



トレーニングジムやフィットネスジムのほか、プール等も備えた「ヴィッセル神戸スポーツクラブ」
（出典：ノエビアスタジアム神戸HP）

(4) 子育て支援センター「ときわんノエスタ」等の運営

就園前の子どもと保護者が気軽に遊べる親子ひろばとして、アカデミーパートナーシップ契約を締結している神戸常盤大学が運営しており、幼稚園教諭や保育士資格を持つ保育アドバイザーが常駐し、出産前や育児中の子育て相談ができる。

また、放課後に小中学生が宿題や自主勉強を行うことができるスペース「てらこやノエスタ」を併設し、小中学校の教員経験・資格を持つ職員が常駐し、教育学部の学生もサポートを行っている。



スタジアム内で運営されている子育て支援センター「ときわんノエスタ」（左）に併設されている「てらこやノエスタ」（右）（出典：ノエビアスタジアム神戸HP）

(5) Y o g i b o（ヨギボー）プロデュース「センサリールーム」(*)の整備

WEリーグ（公益社団法人日本女子プロサッカーリーグ）が多様性社会の実現に向けて取り組む社会活動「WE ACTION（ウィー アクション）」の一環として、令和3年9月に同スタジアム内にセンサリールームが設置され、INAC神戸レオネッサのホームゲーム開催時の利用が可能となっている。

※センサリールームとは、聴覚・視覚など感覚過敏の症状がある人やその家族が安心して過ごせる部屋のこと。大きな音やまぶしい光、人混みなどが苦手な方でも落ち着いた環境でスポーツ観戦を楽しむことができる。



「センサリールーム」で試合観戦を楽しむ親子
（出典：INAC神戸レオネッサHP）

(6) VI SSEL KOBEノエスタ農園

御崎公園内の空きスペースを活用した都市型のシェア農園として、市民に区画（4㎡）ごとに分かれた農地を貸し出しており、自宅にスペースのない市民も気軽に野菜づくりが楽しめる。農作業に必要な農具は現地に設置された倉庫から自由に利用でき、利用者には、運営に協賛

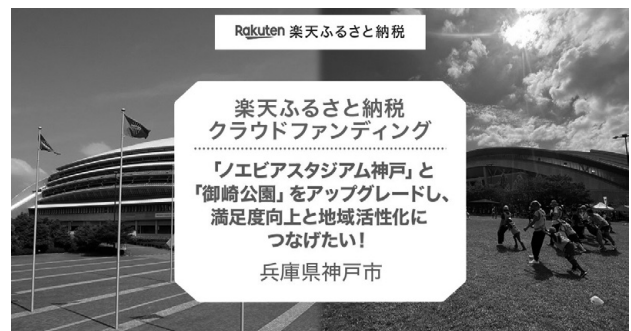


公園内の空きスペースに整備された「ノエスタ農園」
（出典：ノエビアスタジアム神戸HP）

しているアース製薬（株）から菜園初期セットが贈られるほか、野菜づくりの疑問に専門家が回答するなど、初心者へのサポートも充実している。

(7) クラウドファンディング「みんなのノエスタ、アップグレードプロジェクト」

神戸市は、同スタジアムの観戦環境の改善（トイレや授乳室などのアップグレード）や設備の刷新（空調設備のアップグレード、LED化等の省エネルギー化）、遊具エリアの魅力アップ（遊具等のリニューアル）を目的として、クラウドファンディングを活用して寄附を募集し、約1億5千万円の寄附を受け入れた。



5 収益性の検証と設計等への反映（稼働率を想定した投資回収計画について）

(1) 多様な座席種別の設定による稼働率・収益性向上の取組

① THE PRESTIGE（ザ・プレステージ）

ピッチに極限まで近づいたメインスタンド前の特別シート「THE PITCH（ザ・ピッチ）」南側中央での観戦に加え、食事や直筆サイン入りレプリカユニフォームがついた特別なシートで、一般に販売されていないメインスタンド3階の「Premium Socio Club（プレミアム・ソシオ・クラブ）」のラウンジも利用できる。



スタジアムのホーム側メインスタンド中段に位置し、食事やドリンクなどの充実したサービスを受けながら、試合観戦を優雅に楽しめるVIP席「Premium Socio Club（プレミアム・ソシオ・クラブ）」(出典：ヴィッセル神戸HP)

② ピッチサイドシート「THE PITCH（ザ・ピッチ）」

ピッチに極限まで近付いたメインスタンド前の特別シートで、選手たちのプレーをすぐ目の前で観戦することができる。



臨場感あふれる「THE PITCH（ザ・ピッチ）」
(出典：ヴィッセル神戸HP)

③ ボックス8

メインスタンド上段に設置されている最大8名まで利用できるシートで、周りから仕切られた空間で、ゆったりと観戦することができる。

④ ボックス4

メインスタンド上段に設置されている4人掛けテーブル付きシートで、飲食を楽しみながら観戦することができる。

⑤ プレミアム4（ファミリーシート）※一部再掲

稼働率の低かったメインスタンド中段の車いす席を、テーブル付きの4人掛けシートに改修した。

(2) 利用規定の追加・変更等による収益拡大の仕組みづくり

楽天ヴィッセル神戸（株）が管理運営を受託した令和元年度以降、2年間で35項目以上の利用規定を追加・変更し、収益拡大の仕組みづくりを実施している。



車いす席を改修して設置された「プレミアム4」
(出典：ヴィッセル神戸HP)

No.	項目	No.	項目	No.	項目
1	ピッチ利用ルール	13	ブライダル撮影（動画）	25	アップルーム利用料金
2	撮影ルール	14	ブライダル撮影（静止画）	26	ドーピングルーム利用料金
3	キャンセルポリシー	15	飲食売店出店ルール	27	1 d a y V I P 利用料金
4	パントリー拡張	16	スタジアムLED利用料金	28	記者会見室利用料金
5	利用申請書	17	スタジアム養生材利用料金	29	スタジアム見学ツアー料金
6	コンサート利用料金	18	ゴール利用料金	30	関係者控室利用料金
7	運動会料金	19	ベンチ利用料金	31	マッチコミッショナー室利用料金
8	展示会料金	20	審判ベンチ利用料金	32	照明利用料金
9	各延長料金	21	プレミアム4利用料金	33	競技本部長室利用料金
10	新設ラウンジ利用料金	22	ボックス8利用料金	34	会計室利用料金
11	新設バル利用料金	23	クリームゾングルーム南利用料金	35	簡易ステージ利用料金
12	厨房テナント利用料金	24	クリームゾングルーム北利用料金	36	宿泊利用料金

6 スタジアムを活用した地域活性化等の取組

神戸市をはじめとするステークホルダーや各種団体との連携体制が構築されていることが評価され、同スタジアムは、スポーツ庁及び経済産業省の「多様な世代が集う交流拠点としてのスタジアム・アリーナ」（令和2年度）に選定されており、まちづくりや地域活性化の核となるスタジアムの実現を目指している。また、スタジアムの整備をまちづくりと一体的に行うため、近隣自治会等との協議も行われている。

【連携協力を行っている団体等】

（一社）兵庫県サッカー協会、（株）アイナックコーポレーション、（株）神戸製鋼所、（一社）兵庫県ラグビーフットボール協会、兵庫県、神戸市（文化スポーツ局、子ども家庭局、交通局、各区役所まちづくり課局）、（一財）神戸観光局、神戸市神戸コンベンションビューロー、神戸フィルムオフィス、浜山地区まちづくり協議会、和田岬まちづくり協議会、和田岬校区防災福祉コミュニティ、浜山地区推進委員会、三校合同防災訓練、兵庫運河活性化会議 など

(1) 地域との交流やイベントへの出演

① 地域との交流

地元とのふれあいを目的として、お祭りや各種イベントをはじめ、スポーツ大会や福祉活動など様々な活動に参加しており、スタジアム外での活動により、サッカーやスポーツに興味を持ってもらうとともに、健康的な生活やコミュニケーションの大切さを伝えている。

② 地域支援活動

プロサッカーの観戦を通じて、夢や感動を与えるという趣旨に賛同した企業・団体・個人と兵庫県、神戸市がともに行う社会貢献事業として、「ソーシャルシート」を設け、県や市内の福祉施設入所者をホームゲームに招待している。

③ ヴィッセル神戸海岸線地域後援会との活動

サッカーを通じて地域に活力を与えることを目的として、地域の小売店を中心とする企業・

団体等によって平成15年に結成された「ヴィッセル神戸海岸線地域後援会」とともに地域活性化のための活動（応援バナーの掲出，スタジアム周辺の清掃など）を行っている。

(2) 小学校での活動

① GOAL for SMILE プロジェクト

子供たちに夢を与えられる存在となることを目的として，クラブ創設15周年を迎えた平成22年から毎年，公式戦での得点に応じて，同市内の小学校にサッカーボールを寄贈する「GOAL for SMILE プロジェクト」を実施しており，選手が直接訪問してボールを届けている。

② 学校訪問授業「夢で逢えたら」

平成15年にスタートした学校訪問授業「夢で逢えたら」では，「簡単に諦めないこと」，「自分を信じて自信を持つこと」，「夢に向かって努力すること」の大切さを選手自身の言葉で子どもたちに伝えている。

(3) 神戸市新型コロナウイルスワクチン大規模接種会場の設置・運営

ヴィッセル神戸では，社会活動や共通のテーマ（教育，ダイバーシティ，まちづくり，健康，世代間交流など）に地域の人・企業や団体（営利・非営利を問わず）・自治体・学校などとJリーグ・各クラブが連携して取り組む社会連携活動「シャレン！」として，新型コロナウイルスワクチンの接種



(出典：楽天グループ株式会社HP)

を迅速かつ効率的に進めるため，同スタジアムを神戸市の大規模接種会場として運営することを同市に打診し，同市における2か所目の大規模接種会場として設置・運営され，1回目と2回目を合わせて約18万人に，延べ約37万回の接種が実施された。